

基督教学研究

第 11 号

論文

創造と進化

——創造における無——……………森田雄三郎…一

ルターとカールシュタット(二)

——主要事項をめぐる論争——……………宮庄哲夫…三

神言表の可能性とその「言述的」「合理化」の問題

——K・バルト二四年プロレゴメナ『綱要』

における聖書解釈学と三位一体論——……………掛川富康…三

研究ノート

ヘブライズムとギリシア語聖書……………伊藤利行…二〇

エラスムスの「敬虔」概念の倫理的基礎……………畑宏枝…三

彙報

一九八八年度基督教教學講座講義題目

水垣 涉教授 講義 「キリスト教思想の基礎Ⅲ」

〃 研究 「信と行」

廣田昌義教授 研究 「Recherches pascaliennes」

幸 日出男講師 研究 「神学と宗教史」

稲垣良典講師 研究 「中世の倫理思想」

森田雄三郎講師 研究 「哲学者の神の問題」

水垣 涉教授 演習 「キリスト教教學基礎演習Ⅰ」

〃 演習 「Origenes : Commentari

in Ioannem」

勝村弘也講師 演習 「古典ヘブル語及び『五書』
原典講義」

川村永子講師 演習 「H. Thielicke : Glauben
und Denken in der Neu-

zeit」

梶形公也講師 講読 「S. Kierkegaard : Die
Krankheit zum Tode」

森 哲郎助手 講読 「R. Otto : Das Heilige」

小澤和道助手 講読 「Augustinus : Soliloquia」

一九八八年度論文題目

修士論文

竹田文彦 史的アントニオスと古代キリスト教

の修道

第一号 目次

終末論の二類型……………武藤 一雄

キリスト論の視点……………森田雄三郎

初期アウグスティヌスの人間学……………金子晴勇

Lumen Christi……………佐藤吉昭

ルターの „Ordnung“ に関する一考察……………早乙女禮子

ルターにおける信仰と礼典……………竹原創一

バルト「ローマ人への手紙」における神認識……………村山周治

第二号 目次

オリゲネスの「キリスト教理解」……………水垣 渉

ゲッセマネ……………大島征二

神学における言葉の問題……………竹原創一

アウグスティヌスにおけるキリストの
人性について……………小池三郎

ギリシヤ語旧約聖書における *parabola*
について……………伊藤利行

エルンスト・トレルチにおける „Kom-
promis“ の概念……………安酸敏真

シェリングに於ける「世界経験」について……………森 哲郎

ルターにおける「外」と「内」につい
ての一考察……………片柳俊子

第三号 目次

キルケゴール研究の方法について……………	小川圭治
エイレナイオスと聖書……………	菊地栄三
ティリッヒの芸術神学について……………	田辺明子
絶対の相の下に……………	片柳栄一
ルターの律法理解……………	宮庄哲夫
聖書へブル語統辞論のテキスト言語学的考察……………	勝村弘也

第四号 目次

ルターの解釈学は「実存論的解釈」といえるか……………	今井晋
キプリアヌスの教会理解……………	佐藤吉昭
ノビリの印度伝道……………	塩谷悟
テンブルックのヴェーバー解釈をめぐる論争……………	高野晃兆
フィロンとキリスト教……………	平石善司
ルターの抵抗権思想における服従の問題……………	早乙女禮子
創世記テキストにおける語りの技法……………	勝村弘也
シェリングに於ける神話と世界……………	森哲郎
ヘクサプラ断片の残存率について……………	伊藤利行

第五号 目次

解釈学的教義学の構成について……………	森田雄三郎
内村鑑三と「身体の救い」……………	原島正
言語芸術作品としての旧約聖書物語テキスト……………	勝村弘也
エルンスト・トレルチにおける「歴史 の神学」の構想……………	安酸敏真
教義学的思考における解釈学的循環の問題……………	掛川富康
第六号（武藤一雄名誉教授古稀記念特別号）目次	
神学的宗教哲学について……………	武藤一雄
アレクサンドリアのフィロンにおける 能動と受動の問題……………	水垣涉
奇蹟物語へのマージナリア……………	大島征二
アルバート・シュヴァイツァーの聖餐 論への新約聖書学的批判……………	田辺明子

ヨセフスのモーセ物語について……………	秦剛平
エイレナイオスの人間理解……………	菊地栄三
キプリアヌスの『棄教者論』考察……………	佐藤吉昭
アウグステイヌスの時間論……………	片柳栄一
ルターにおける「アフエクトゥス」の問題……………	今井晋
ルターとアウグステイヌス……………	金子晴勇
神学的構造主義の問題……………	森田雄三郎
M・ウェーバー「古代ユダヤ教」と パリア民族の概念……………	高野晃兆
浄土系仏教とキリスト教の救済論の 一異に関する考察……………	原田博充
日本の伝統的宗教的心情とキリスト教 との関連について……………	名木田薫
ウィリアム・ケアリの伝道に対する貢献……………	塩谷悟
神概念の転換……………	小川圭治

第七号 目次

ルターと神学的決定論	金子晴勇
Imago Deiとしての精神の自覚の 三一的構造	片柳栄一
脚下照顧	武藤一雄
M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と カスパリの批判(一九二二)	高野晃兆
パウル・ティリッヒと象徴の問題	芦名定道

第八号 目次

キリスト教概念の成立(その二)	水垣涉
アルベルト・シュヴァイツァーの「イ エス神秘主義」	笠井恵二
シェリング『自由論』再考(一)	森哲郎
ルターにおける職業観の問題	早乙女禮子

第九号 目次

西田幾多郎とキリスト教

——滝沢巳克の思索を手がかりとして——小川圭治

R・ブルトマンにとってのイエスの

意義に関して……………名木田 薫

旧約物語テキストにおけるヒンネー

(見よ)の機能……………勝村弘也

シェリング『自由論』再考(一)

——自由と「地」の世界——森 哲 郎

P・ティリッヒの時間論……………

……………芦名定道

キェルケゴールの「自己の定義」について……………山本忠義

第十号 目次

ルターにおける「体験」の問題

——一つの覚書——

„Sola experientia facit theologum“……今 井 晋

シュタウピッツとルターの神秘思想……………金子晴勇

ルターとカールシュタット(一)

——宗教改革の同志とライバル——……宮 庄 哲 夫

ルターにおける試練について

——第二回詩篇講義より——……………竹 原 創 一

神学主義と宗教主義…………………………武 藤 一 雄

オリゲネス『原理論』に於ける悪の問題序論……………久 山 道 彦

キェルケゴール『死に至る病』の

「キリスト教的理解」…………………………信 岡 茂 浩

第十一号編集実務委員会

執筆 者

森 田 雄 三 郎

同志社大学教授

宮 庄 哲 夫

同志社大学助教授

掛 川 富 康

茨木キリスト教大学助教授

伊 藤 利 行

関西大学非常勤講師

畑 宏 枝

京都大学大学院博士課程在学中

小 池 三 郎
高 野 晃 兆
林 忠 良
片 柳 栄 一
宮 庄 哲 夫
勝 村 弘 也

一九九〇年三月二十日印刷
一九九〇年三月三十一日発行

定 価 一 〇 〇 〇 円

発 行 者

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部
基督教教学室内

発 行 人

小 池 三 郎

印 刷 所

河北印刷株式会社

本誌の御註文は、右記、京都大学基督教学会(振替京都三二七二〇七)へ、送料とも一、二〇〇円(定価一、〇〇〇円)、送料二〇〇円)を添えてお申込み下さい。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES

KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol. 11

March, 1990

Contents

Creation and Evolution

—*Nothingness in the Creation*—..... Yuzaburo Morita

Luther and Karlstadt

—*Their Dispute on the Chief Articles*—..... Tetsuo Miyasho

*Zur Sagbarkeit Gottes und ihrer
diskursiven Rationalisierung*

—*Hermeneutische Analyse von der ersten
Prolegomena., CR*“ (1924) *K. Barths*—..... Tomiyasu Kakegawa

Hebraism and the Greek Bible..... Tosiya Ito

Ethical foundation of the “pietas”

in the writings of Erasmus..... Hiroe Hata

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan